

社会福祉協議会だより

～中川地区～

H26. 7. 1 NO. 4

=地域福祉・防災アンケート特集=

1 取り組みと経過

アンケートは H25 年 2 月に実施し（中川地区全 10,150 世帯に配布、回収数 4,668 世帯）、半年をかけて集計分析を行い、課題をまとめた「調査報告書」が今年 3 月に完成しました。今回は結果の概要と特徴的な意見をお届けします。

2 回答状況

アンケートは世帯の構成状況に応じて回答できるように工夫しました。

- | | |
|---------------|---------|
| ① 全世帯用 | 4,429 件 |
| ② 高齢者のいる世帯用 | 1,456 件 |
| ③ 子供のいる世帯用 | 1,881 件 |
| ④ 障がい児者のいる世帯用 | 259 件 |

3 特徴的な内容

① 全世帯用アンケートから

- 居住年数が短いほど近隣との付き合いが浅い傾向にあるが、居住年数が短いほど深い付き合いを求めている。
- 若い世代は地域活動に参加したいと考えているが、きっかけや情報が無く参加できていない。
- 手伝える地域活動としては、声かけや安否確認・見守りが多く、次いで自治会町内会のイベント（祭りや運動会）となっています。
- 災害への備えについては、65%が地域防災拠点を知っていると答えていますが、地域の防災訓練には 54%が参加していないと答えています。
- 地区社協が知られていないため、活

動内容を知ってもらう必要がある。



② 高齢者のいる世帯用から

- 日常生活上の困り事は「特にない」が半数以上を占め、現状では困り事を感じていない人が多い状況でした。
- 困り事の上位は、災害時の避難や日常の外出・買い物に不自由・不便・苦勞など、身体的な不自由が影響するものが占めています。
- 日常生活の中で、人と関わる生きがいや楽しみの機会が無い方が比較的多いことがわかりました。

③ 子供のいる世帯用から

- 自分の子育てについては、大部分の人が子育てに満足しているとの回答でした。
- 子育てでの悩みは、子育てにかかる費用や育児の方法しつづけが上位を占めました。また子育てについての情報や相談で頼りにしているのは、回答者の約 8 割が友人・知人でした。



- 今回、子供自身が回答した地域で参加したい項目には「地域の祭りやイベント手伝い」や「まち探検」「公園の掃除」「外国人との交流」「保育園での手伝い」などが上位を占め、多様な地域活動への関心が伺えます。

④ 障がい児者のいる世帯用から

- 高校卒業後から 64 歳までの人のうち、約 2 割の人が日中の通い先が無い状況にあります。
- 生活上の困りごと・悩み・不安については、日常生活上の困りごとよりも、災害時や将来についての不安が強いという結果でした。
- 具体的には災害時、避難場所は障がい児者に配慮された環境にあるのか不安。災害時に避難できるか不安。また、親亡き後の生活の不安などがありました。

自由記述の要約

今回のアンケートでは、回答に加えて、皆様から日頃の思いも書いていただきました。その数は 396 件に及びました。項目別に概要をお伝えします。



1 結果の周知

アンケートの結果をフィードバックし広く知らせて欲しい。

2 社会福祉協議会とは

PR が不足している。どのような組織でどんな活動をしているのかわかりやすく伝えて。

3 町内会の活動

若いまちで近隣のつながりや交流が少ない。皆が加入して一緒に活動してもらいたい。今は決まったことの伝達が多く、回覧板は重要な情報がほとんど無い。災害に備えるには何が必要かなど、身近な課題に伝えて欲しい。

4 マンションの課題

自治会がないなど、人間関係が希薄で助け合いの精神があまり無い。表札を出さない、個人情報提供を嫌がる傾向がある。普段から名前がわかっている方が結果として福祉につながるのではないかな。

5 高齢者の不安

寂しい思いをして一人で暮らしている。おしゃべりできる場所や気軽に休める所があると助かる。様々なハンディのある方と交流ができれば学ぶことがあるはずだ。自分がどんな福祉サービスを受けられるのか、必要な手続きもわからない。

6 子育て中の親の思い

赤ちゃん会は親の友人ができてとても助かる。未就園児童も同様なサポートがあると嬉しい。交流の場があると広くつながる機会になる。子供は稽古や塾で忙しく、地域とのかかわりが希薄だ。お年寄りが子供と遊びを見守る環境ができれば嬉しい。

7 障がい者と地域

障がい者がもっと表に出やすい社会になり、幅広く交流できれば地域で共に生きる意識が相互に芽生え、助け合える関係が生まれる。

8 防災・防犯の推進

地域防災拠点がどこなのかまだ知らない人がいる。地域にどのような手助けが必要な方がいるのかわからない。組など小規模単位で訓練して顔見知りを増やす方法もある。

9 地域とボランティア

つながっている安心を得るためにも「お手伝い」したいと思うが、どこで何をしたら良いのかわからない。親子で参加できるようなシステムがあると良い。

《地区社協》

中川地区社会福祉協議会の総会を5月21日に開催しました

平成 26 年度予算や事業計画では、地域福祉防災アンケートの調査報告書を受けて、今後の事業展開や、地域福祉活動計画の実践に繋げていくことが確認されました。具体的には、声かけや地域活動が更に盛んになり、交流サロンの実施や災害時要援護者事業の取り組みが進むなど、引き続き「安全で誰もが住みやすい町」を目指します。